

# 紙とハサミで松花堂づくり

ペーパークラフトで松花堂を作る子どもたち



松花堂を見学する子どもたち

8月2、3日の2日間、「紙とハサミでつくる草庵『松花堂』」が松花堂庭園・美術館で行われ、小学校1〜5年生の参加者14人がペーパークラフトや切り紙で松花堂を作りました。

このイベントは、文化財の見学とモノ作りを通して、子どもたちに地域の歴史や文化に興味を持ってもらおうと同館が企画しました。1日目は、講師に京都工芸繊維大学伝統建築生産学研究室の矢ヶ崎善太郎先生を招いたペーパークラフト作り。子どもたちは、松花堂を見学してから制作を開始。厚紙に印刷された茅葺き屋根や内装などのパーツをハサミで切り取り、折り曲げてテープで留めながら組み立てていきます。仕上げに色鉛筆で色を塗って、異体字という発音が同じになる漢字で「松花堂」と書かれた額のシールを貼り、自分だけの松花堂を完成させていました。



キーボードで演奏する参加者たち

## まちの話題

「このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。」

### 五感使って脳を活性化

#### 第1回 キーボードを楽しむシニアの集い

「キーボードを楽しむシニアの集い」の第1回が8月7日、市文化センターで行われ、参加者11人がキーボード演奏を楽しみました。

同集いは、65歳以上のシニア世代を対象にキーボード演奏を楽しみながら、五感を使い脳を活性化し、認知症を予防してもらおうと市シルバー人材センターが主催。講師には、市少年少女合唱団を指導する阪口朱実さんを招きました。

小林敦さん(70)は「キーボードは初めてで、正しく指を運ぶのが難しかったです。今後はいろいろな曲を弾けるようになります」と話していました。

### 親子で陶芸体験

#### 全3回 市文化センターで

8月9日、市文化協会陶芸部会による「第5回夏休み親子陶芸体験教室」が市文化センターで行われ、約50人の親子連れが陶芸を楽しみました。

同教室は、親子で楽しみながら陶芸を体験し、子どもたちにとっては夏休みの良い学習にしておうと、夏休みに全3回の日程で開催されました。

2回目のこの日は、1回目に粘土で成形した皿や箸置きなどの作品に、陶芸用絵の具と筆での絵付けや灰色やベージュの釉薬で装飾

を行う工程です。

参加者たちは、ろくろを回しながら模様を描いたり、釉薬を垂らしたり掛けたりして作品に装飾。同会会員から「釉薬は焼き上がると色が変わるので、できあがり想像するようにしてください」などのアドバイスをもらいながら、集中して作業を進めていました。

今後、本焼きして完成した子どもたちの作品は、来年2月21、22日開催の第12回子ども文化祭で展示される予定です。



作品に絵付けをする親子

### 市子ども会議 よりよい八幡目指して

「八幡市子ども会議(第3回)」が8月11日、市文化センターで開催され、市内の小中高生で構成された子ども会議委員35人が4班に分かれて取材・調査活動を行いました。

この会議では、同委員たちが八幡をより良くするため、八幡のくらしや魅力などのテーマに沿って、子どもならではの視点で調査や協議を行っています。

竹の再利用とコンテスト化を目指す小学生班は、NPO法人八幡たけくらぶの会員から講義を受けました。講義

では、放置竹林の存在や竹の強度がヒノキよりも強いことなどの話がされ、小学生班の同委員たちはメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

また、竹の再利用の例として竹トンボが紹介され、同会員の指導を受けながら、竹トンボの作り方を学びました。

同委員たちは今後も会議を重ね、取りまとめた内容を年末に市長に提言します。

南山小6年の安井宣恵さん(11)は「竹でいろいろなものを作ることがエコにつながると知ったので、便利なものを作って市長に提言したいです」と意気込みを話していました。



竹トンボの作り方を教わる子ども会議委員たち